

7組 自立活動指導案

指導者 T1：米山 美咲

T2：福西 理恵

1 日 時 令和4年 7月 11日(月) 第5校時 (7組教室)

2 単 元 「力を合わせて7組ランドを作ろう！」

(8時間完了 本時 7/8)

3 単元について

①子どもの実態

本学級は肢体不自由学級で、5年女児(A児)と2年男児(B児)の2名で構成されている。A児は、脳原生発達遅延による体幹機能障害が原因の歩行困難と知的障害をもち、B児は、先天性による体幹機能障がい原因の歩行困難と知的障害をもち、2人とも体幹機能障害によるバランスの悪さが見られ歩行は不安定である。また手先が不器用で、程度の差はあるが細かい作業は苦手である。

A児は、自分が興味をもったものや人に対しては反応をすることができる。歌や手遊びが好きで、歌ってほしい歌があると歌いだしを歌ったり、大人の手を取って動かしたりして要求をする。大人が歌い始めると笑顔と一緒に歌い、また別の歌を要求してくることもある。また、給食では牛乳が飲みたいときに自分で手を伸ばして取ったり、食べたいものがあるときは指を指したりすることができる。休み時間には好きなおもちゃを探しに自分からロッカーへ行く様子も見られる。しかし、興味をもつものの範囲が狭いため、自立活動に積極的に参加できることはあまりなく、用意された教材に反応しないことも多い。

B児は話をするのが好きで、担任や支援員など身近な大人には、自分の好きな物の話や休みの日にしたことなどを話すことができる。学習やトレーニングは、ゲーム性のあるものが好きで、単調な文字の練習のような同じことを何度も繰り返す活動は集中力が切れてしまうが、時間を計ったり、「終わったら折り紙をしよう」のようにご褒美があったりすると楽しみながら取り組むことができる。また、遊ぶことが大好きで、「もっと楽しくしたい」という思いをもって遊び方を工夫することも好きである。しかし、できないことがあるとすぐに諦めて「ぼくはばかだ」と自信を失ったり、できることでもそのときの気分でやりたくないと逃げてしまったりすることがある。

自立活動の観点からみた実態は、以下の通りである。

実 態		
身体 の 動 き	A 児	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて手を動かすことができる。 ・平坦な道を歩いたり、手すりを使って一人で階段を登ったり降りたりすることができる。 ・人差し指で押す、親指・人差し指・中指を使って対象のものをつまんで引っ張るといった動きができる。 ・段差や凹凸のある道はバランスの悪さから転倒の可能性があるため、補助が必要である。 ・立ち上がる、座るといった動きは一人でできるが、不安定である。 ・姿勢が悪く、座位の場合は背中が曲がっている。床に一人で座ることができるが、時間が経つと誰かにもたれたり、寝そべったりする。
	B 児	<ul style="list-style-type: none"> ・歩いたり、走ったりすることは一人ででき、階段は手すりを使えば一人で登ることができる。 ・バランスを崩しやすく、特に体をひねる動きをすると転倒しやすい。 ・指先を使った作業が苦手で、名札の安全ピンを操作したり、紐を結んだりすることが難しい。
コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン	A 児	<ul style="list-style-type: none"> ・名前を呼ばれると振り返ったり、教室に入って来た人の方を見たりと、人の声や周りの様子に反応することがある。 ・歌ってほしい歌の歌いだしを歌うことができる。 ・言語や指差しによるコミュニケーションがほとんどできないため、本人の思いや要求を人に伝えることが難しい。
	B 児	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や会話をすることができる。 ・発音が不明瞭なため、思いが伝わらないことがある。

本単元では、教師と児童2人が対話し、楽しみながら体を動かす題材を通して、なめらかな関節の動きや身体のバランス感覚など、日常生活に必要な動きをスムーズに行うための力を付けさせたい。

②単元のとらえ

本単元は、自立活動6区分の中の「身体の動き」、「コミュニケーション」に焦点を当てている。

「身体の動き」の観点では、日常生活に必要な力として、バランス感覚や柔軟性、手指の使い方、筋力を養うために、手先を動かす運動や、教材を使用したさまざまな歩行練習などを組み合わせ、トレーニングコースを作っていく。

「コミュニケーション」の観点では、児童が可能な手段を用いて自分の意志を伝える力を養うことをねらいとし、2人の児童がコース作りをしながら交流する機会を作る。さらに、B児が自分の意図を言葉で伝える力を養うために、教師と対話をしながら活動していく。

A児の実態はコース作りに参加することが難しいが、上記のB児との交流に加え、「コースの中にA児が参加できる動きを取り入れる」という約束のもとコース作りを進めていくことで、A児にとっても有効なトレーニングコースを目指す。

さらに、最終的に出来上がったコースに他クラスの児童を招待し、実際にやってもらうという目標を設定する。コースについての説明をしたり手本を見せたりする場を作ることで、主体的にトレーニングに取り組む姿とコミュニケーションの力を高めていきたい。

③指導の手立て

「7組ランド」は、楽しみながら身体の動かし方を学ぶことができる教材である。

まずは、毎日のルーティンとして身体、手先のトレーニングを行っていくが、「トレーニングをする」という雰囲気になると2人とも意欲が低下してしまう。そのため、身体のトレーニングの際には音楽を流すことで、楽しい雰囲気で行うことができるようにする。また、2人とも好きなキャラクターがいるため、その日のトレーニングが終わったらそのキャラクターのステッカーをカレンダーに貼って継続したことが一目で分かるようにする。手先のトレーニングのための教材は、なるべく2人が興味をもって取り組むことができるように日々改善していく。

コース作りでは、B児が考えたコースのアイデアを積極的に取り入れ、やってみた感想も含めて記録・掲示していく。写真を使って分かりやすく記録することで、毎時間の振り返りがしやすくなり、よりよいコースの組み合わせをスムーズに考えられるようにする。

2人のコミュニケーションについては、A児はB児の呼びかけに対して具体的な返事をするのは難しいが、教師が支援しながら表情や仕草で反応することができるようにする。実際にコースをやってみるときは、A児の好きな音楽を流しながら行うことで、普段は自立活動に対して消極的なA児が、楽しく参加することができるようにする。

B児は他クラスの児童との交流が好きであるため、最終的に「7組ランド発表会」を行うことで、B児が意欲的に活動に取り組むことができるようにする。

4 単元の指導目標

	A児（5年）	B児（2年）
【身体の動き (1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること】	<ul style="list-style-type: none">・教師の誘導に合わせて、足や股関節を動かすことができる。・教師の誘導に合わせて、体の向きや姿勢を変えることができる。	<ul style="list-style-type: none">・体を動かす遊びをしながら、バランスをとったり体をひねったりすることができる。
【コミュニケーション (1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること】	<ul style="list-style-type: none">・教師やB児の呼びかけに対して反応することができる。・教師やB児に渡された道具などに興味をもち、自ら触ることができる。	<ul style="list-style-type: none">・教師に対して、自分のやりたいことやその理由を説明することができる。・A児に対して、励ましの言葉をかけたり、してほしいことを伝えたりすることができる。

5 単元構想 (8時間完了 本時 7/8)

◆ : A児について ★ : B児について

<支援・評価>

振り返り (1時間)

コース作りを振り返ろう! ①

○今までどんなコースを作ったかな。

- ・わっかを並べる
- ・コーンを並べる
- ・教室いっぱいコースを作る
- ・Aさんにタッチする

★もっといいコースを作りたいな。

★どんなことができるかな。

●ルーティン<身体の動き>

身体

- ・手足のほぐし
- ・股関節を緩めるストレッチ
- ・股関節を動かすトレーニング
- ・肩マッサージ

手先

- ・各自の教材を使ったトレーニング

・意欲を高めるために、ルーティンは積み重ねが見えるようにする。

・楽しみながら取り組むことができるように、好きなキャラクターを登場させたり、音楽を流したりする。

・次のコース作りに繋げるため、作ったコースのよい点を見つけて褒める機会を多くとる。

・発表用のコース作りをしやすくするため、作ったコースは記録をとり、よい点分かる形で掲示する。

課題発見 (6時間)

できることを確認して、コースを作ろう! ②~⑥

○わっかやコーンには、どんな使い方があったかな。

<わっか>

- ・まっすぐ並べる
- ・互い違いに置く
- ・けんけんぱ
- ★遠くに置くと難しいな。
- ★どうやって置くと曲がりやすいかな。

<コーン>

- ・まっすぐ置く
- ・互い違いに置く
- ★近くに置くと通りにくいな。
- ★大きいコーンと小さいコーンで歩き方を変えてみようかな。

<ほかにもどんなことができるかな>

- ★ボールゲームを入れようかな。
- ★マットを使ってみようかな。
- ★Aさんにも聞いてみよう。

○コースを作ってやってみよう! もっと楽しくできるかな。

- ★わっかの置き方を組み合わせると楽しいな。
- ★コーンとわっかを交互にするとおもしろいな。
- ★Aさんにかごを持ってもらおうかな。
- ★友達にも見てもらいたいな。
- ◆Bさんが楽しそうだな。私もボールを触りたいな。

はっぴょう会にむけて、いちばんすてきなコースを作ろう! ⑦(本時)

○今までのコースをどうやって組み合わせたらいいかな。

- ★楽しかったコースを組み合わせたらいいコースになるかな。
- ★ゴールにどんなものがあると喜んでもらえるかな。
- ★Aさんにはどんなことをしてもらおうかな。
- ★上手に手本を見せたいな。
- ◆Bさんと一緒にやるのは楽しいな。

7組ランド はっぴょう会! ⑧

○出来上がったコースを友達や先生たちに見てもらおう!

- ★上手に説明や手本ができて嬉しいな。
- ★みんなが喜んでくれてよかったな。
- ★褒めてもらえるとやる気が出るな。
- ◆他のクラスのみんなと一緒にやるともっと楽しいな。

発表・振り返り (1時間)

評価(主体的に取り組む姿)
◆自分からコースに参加したか。
★コース作りに対して前向きに取り組んでいたか。

・友達にやらしてもらおうことを意識させることで、ちょうどよい難易度のコースを作ることができるようにする。

・手本を見せる機会を作ること、コースを作るだけでなく、自分がコースに挑戦する意欲も高める。

評価(身体の動き)
◆ボールなどの教材を自分から触ることができたか。
★コースに合った手本の動きをすることができたか。

評価(コミュニケーション)
◆B児と関わり、笑顔で参加できたか。
★友達の前で説明したり、手本を見せたりすることができたか。

6 本時の学習 (7/8)

(1) 目標

- ① 全体の目標 ①自分たちに合ったコースを作ることができる。
②コースに合わせた身体の動きができる。

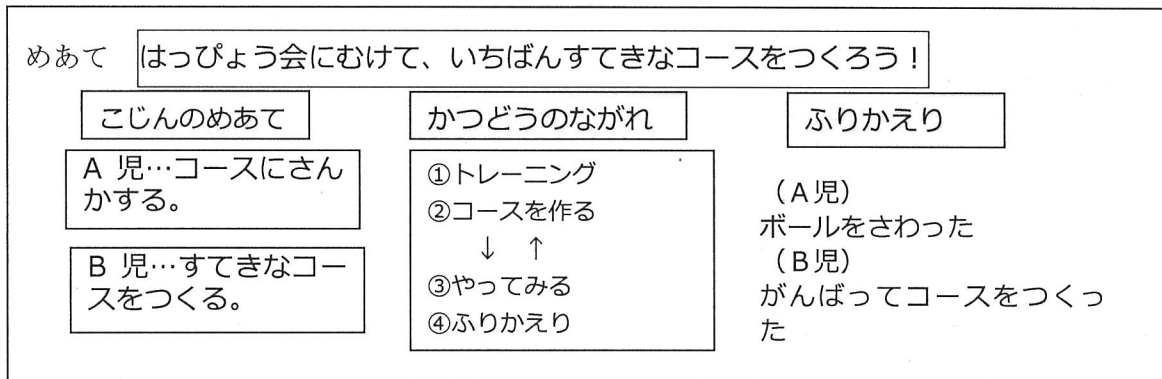
② 個別の目標

	A 児 (5年)	B 児 (2年)
【身体の動き：(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること】	<p><身体のトレーニング></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の誘導に合わせて股関節や腰を伸ばしたり、動かしたりすることができる。 <p><手先のトレーニング></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材をつかんで場所を移動させたり、箱の中に入れてたりすることができる。 <p><コース></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に、決められた動きをすることができる。 	<p><身体のトレーニング></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師やA児の動きを見ながら股関節を伸ばしたり、腰を動かしたりすることができる。 <p><手先のトレーニング></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材に合わせて指先の動きを練習することができる。 <p><コース></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で作ったコースに合わせて歩いたり、体をひねったり、ジャンプしたりすることができる。
【コミュニケーション：(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること】	<ul style="list-style-type: none"> ・教師やB児の呼びかけに対して反応することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師に自分の作りたいコースやその理由を伝えることができる。 ・A児にしてほしいことを伝えることができる。

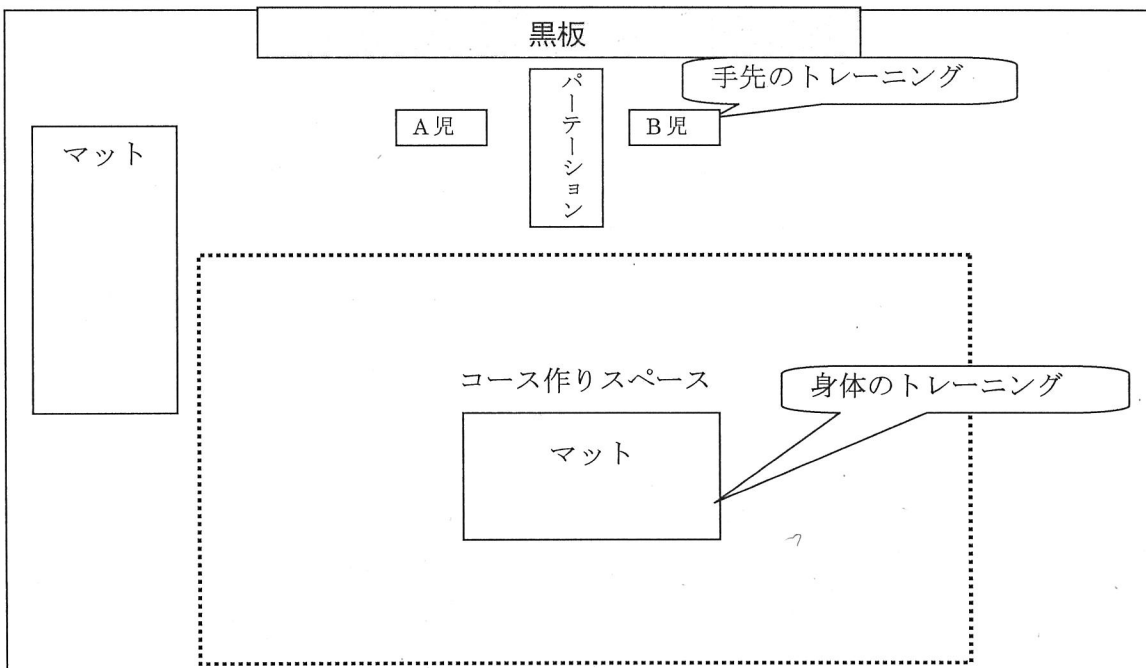
(2) 準備

- ・トレーニング用グッズ ・マット
- ・コース作りに必要なもの（輪、コーン、ブロック、ボール等）
- ・スピーカー ・ご褒美用ステッカー ・パーテーション

【板書計画】



【場面設定】



(3) 展開

時間	学習活動 (下線は学び合いの場面)	☆予想される児童の姿 教師の支援	
		5年A児	2年B児
つかむ (15分)	1 本時の課題と流れを確認する。	はっぴょう会にむけて、いちばんすてきなコースをつくろう！	
	2 各自のトレーニングをする。	<p>☆教師と共に、足や股関節を動かす。</p> <p>T1：楽しい雰囲気でのトレーニングができるように、A児の好きな音楽を流す。</p> <p>☆T1と共に、手先のトレーニングをする。</p> <p>☆教材を触ったり、つかんだりする。</p> <p>T1：手を添えて一緒に取り組むことで、A児が成功体験をすることができるようにする。</p>	<p>T1：本時への意欲を高めるために、今までに作ってきたコースを振り返る。</p> <p>☆教師やA児の動きを見ながら、自分で身体のトレーニングをする。</p> <p>T1：自信をもつことができるようにするために、上手にできたときは賞賛する。</p> <p>☆T2と共に手先のトレーニングをする。</p> <p>T2：なるべく自分の力で取り組むことができるよう、B児が困っている時は励まししながら見守る。</p>
ふかめる (25分)	3 <u>コース作りをする。</u>	<p>☆T2と共にコース作りを見学する。B児から声をかけられたら反応する。</p> <p>T2：A児が落ち着いて、楽しく見学をすることができるよう、手足のマッサージをしたり、手遊びをしたりする。</p> <p>T2：B児とのコミュニケーションを取ることができるよう、B児からの呼びかけに反応するよう声をかける。</p>	<p>☆今までに作ったコースを振り返りながら、新しいコースを作る。</p> <p>T1：今までのコースの話を適宜していくことで、B児がコースの振り返りをしやすいようにする。</p> <p>T1：B児が自分の言葉でコース作りについて話すことができるように、そのコースにした理由について質問する。</p> <p>T1：2人が活躍できるコースにするために、A児の活動を取り入れたコースにするよう声をかける。</p>
	4 <u>コースに挑戦する。</u>	<p>☆B児に言われた部分で、コースに参加する。</p> <p>T2：スムーズにコースに参加することができるよう、移動等のサポートをする。</p>	<p>☆いいところ、直したいところを考えながらコースに挑戦してみる。</p> <p>T1：ただやってみるだけにならないように、B児が特に楽しそうにしているところや困っているところがあれば声をかけ、振り返りにつなげられるようにする。</p>
	5 コースを修正し、再度やってみる。		<p>T1：最終的に友達にやってもらうということを視野に入れるために、「○○くんだったらどうかな」のような、相手を意識した声掛けをする。</p>

振り返る(5分)	4 振り返りをする	☆がんばったことを教師が言葉で伝える。	☆がんばったことを自分の言葉で発表する。 T1:自分の言葉で選んで言うことができるように、今日何に取り組んだかを簡単に確認する。
----------	-----------	---------------------	---

(4) 評価

- ①全体の評価 トレーニングやコース作りに取り組むことができたか。(活動の様子)
②個別の評価

	A児(5年)	B児(2年)
【身体の動き:(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること】	<p><身体のトレーニング></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の誘導に合わせて身体の向きを変えたり、手足を動かしたりすることができたか。 ・身体の力を抜いて股関節を伸ばすことができたか。 ・腰をなめらかに動かすことができたか。 <p><手先のトレーニング></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教具を触ったり、つかんだりすることができたか。 ・教具をつかんで場所を移動させたり、指定された箱の中に入れたりすることができたか。 <p><コース作り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コースの中で、決められた動きをすることができたか。 <p>(活動の様子)</p>	<p><身体のトレーニング></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師やA児を見ながら、自分でストレッチやトレーニングの動きをすることができたか。 ・股関節を意識して腰を動かすことができたか。 <p><手先のトレーニング></p> <ul style="list-style-type: none"> ・指先を意識して、教具に合わせたトレーニングに取り組むことができたか。 <p><コース作り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コースの中で、身体のバランスを意識しながら歩いたり、ジャンプしたりすることができたか。 <p>(活動の様子)</p>
【コミュニケーション:(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること】	<p><コース作り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師やB児の呼びかけに表情や仕草で反応することができたか。 <p>(活動の様子)</p>	<p><コース作り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師に対して、作っているコースについての質問に答えたり、自分の思いを伝えたりすることができたか。 ・A児に対して、コース作りの内容を提案したり、動きを説明したりすることができたか。 <p>(活動の様子)</p>